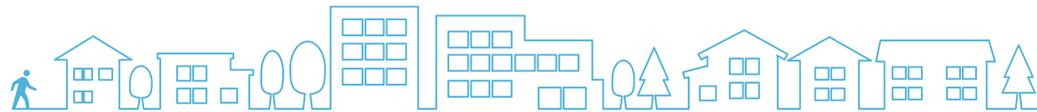


特集 かわさき区のゆかりの人物



多摩川初の農業用水路を完成

こいずみ じだゆう
小泉 次大夫 1538年~1623年

水利土木技術を代々受け継ぐ家に生まれた小泉次大夫は、天正18年(1590)徳川家康の家臣として江戸に入り多摩川の治水奉行に任命される。当時の多摩川は度々なる大洪水の影響で村々は荒廃していた。人々の苦しい生活に胸を痛めた次大夫は、家康に農業用水路の開削と新田開発を建言した。

慶長2年(1597)、次大夫は世田谷・六郷領(現在の世田谷区・大田区)の「六郷用水」と、稲毛・川崎領(現在の多摩区~川崎区)の「二ヶ領用水」の開削に着手し、以後14年かけた大工事を指揮し、多摩川で初めての農業用水路を完成させた。この時次大夫は74歳を迎えていた。

現在、用水路としての役割を終えた二ヶ領用水は、住民の水に親しむ空間、地域のシンボルとして地域に溶け込んでいる。



小泉次大夫夫妻の逆修塔(生前に建てられた墓)と次大夫像(川崎区妙蓮寺) 現在の二ヶ領用水(宿河原付近) 小泉次大夫と田中休愚の二人の偉業を讃え建てられた「泉田二君功徳碑」(妙蓮寺)

多摩川の治水工事の功労者

たなか きゆうく
田中 休愚 1662年~1729年

22歳で川崎宿の本陣職・田中家の娘婿となった休愚は、45歳で田中家を相続、六郷川の渡船権を獲得し、財政難にあえぐ川崎宿を見事再建した。大著「民間省要」が八代将軍吉宗に認められ、幕府の治水事業に大きな貢献を果たす。小泉次大夫による完成の後、すでに110年余りが経過していた二ヶ領用水の大改修工事や、多摩川下流の築堤工事などを完遂した。この工事によって、今も延々と続く多摩川下流の堤防の基礎がつけられた。休愚の功績は、全国の治水工事に大きな影響を与えたとされている。

一介の農民から町人、武士、さらに三万石支配の代官職にまで立身出世を果たした異色の民政家、地方(ちかた)巧者として名高い。今日の川崎の発展の礎を築いた最大の功労者のひとりに数えられる。



現在の多摩川下流堤防(鈴木町)

池上新田の開発と殖産興業に尽力

いけがみ ゆきとよ
池上 幸豊 1718年~1798年

12歳の時に亡くなった父幸定の跡を継ぎ大師河原村の名主となった幸豊は、算数や農業、天文など河漢の書に学び、利益にたった殖産興業を強く志すようになった。そしてかねてから幕府に願っていた新田開発の許可を得ると、宝暦6年(1756)に沿岸部の開拓に着手する。767両余りの費用と6年の歳月をかけて面積14町5反余(約14.3ha)の新田が開発され、宝暦12年(1762)に完成した新田は「池上新田」と命名された。

幸豊は新田開発以外にも、製塩や芒硝(火薬の原料)、養魚、ニンジン栽培、ナシ・ブドウの果樹栽培、和製砂糖

の製造と関東諸国への製法伝授の行脚など殖産興業に多大な貢献を果たし、また文人としても貴重な記録や随筆などを残した。

汐留稲荷で祭神として祀られるとともに、功績を讃える「池上幸豊翁之碑」が建立されている。



「池上幸豊翁之碑」(汐留稲荷)

初代川崎市長

いしい たいすけ
石井 泰助 1865年~1931年

石井泰助氏は川崎宿の材木商石井家の長男として生まれ、幼名を泰次郎と称した。石井家は吹田屋という屋号で材木の販売ほかに機械製材や山林事業を手掛けていたほか、地域有数の地主でもあった。

26歳で泰助を襲名、明治28(1895)年に川崎町会議員に初当選し、明治30(1897)年以降町長を3期務めたのち、大正13(1924)年に初代川崎市長に当選した。

明治末期に自己の所有地を安価に企業に提供したり、地域の地主の土地買収の斡旋を行うなど、昭和4(1929)年に退任するまで大企業の工場進出の積極的

な誘致を進め、川崎の工業化に大きな役割を果たした。

市役所に程近い稲毛公園には、その功績を称えた石碑が設置されている。



石井泰助称徳碑

人生劇場、六甲風の作詞

さとう そうのすけ
佐藤 惣之助 1890年~1942年

大正から昭和初期にかけて活躍した佐藤惣之助は、代々川崎宿砂子の本陣職を務め、明治維新後は雑貨商「藤屋」に転じていた佐藤家の次男として明治23年(1890)12月3日に生まれる。東京麻布の商家に丁稚奉公に出ていた12歳の頃から俳句を始め、劇作を経て、詩作へと活動の中心が移った。大正5年(1916)、25歳で処女詩集『正義の兜』、翌年には『狂へる歌』を出版、以後生涯にわたり22冊の詩集を刊行した。

コロムビアレコード社の専属作詞家として、歌謡曲『男の純情』『人生劇場』『人生の並木道』などがヒットし、佐藤惣之助の名はより知られることとなる。『赤城の子守唄』『六甲風(おろし)』は特に有名。



「佐藤惣之助の碑」(カルッツかわさき内)



「佐藤惣之助の碑」(稲毛神社内)

日本で唯一人の全米No.1歌手

さかもと きゆう
坂本 九 1941年~1985年

川崎区生まれ。昭和29年(1954)川崎市立川崎小学校卒業。日本の代表的な歌手で、『上を向いて歩こう』『見上げてごらん夜の星を』『涙くさよなら』などのヒット曲が多数ある。

特に、『上を向いて歩こう』は『スキヤキ』というタイトルで、その年のアメリカで3週連続ヒットチャート第1位を獲得、世界中で今までに2千万以上のヒットを記録した唯一の日本の名曲である。世界的に有名になった最初の日本人歌手として今も親しまれている。



坂本九さん解説板(川崎小学校前)

